

カワラハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

Cicindela laetescripta Motschulsky

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては河川や海岸の砂地に比較的広く分布していたが、現在は激減し、生息地が限定されるうえ、採集圧がかかっている。

形態

体長14~17mmで比較的大型のハンミョウである。上翅に白い斑紋があるが、個体変異が大きい。

国内分布

北海道から九州まで分布するが、局地的でどの地域でも個体数は減少傾向にある。

県内分布

かつては加賀地方、能登地方の海浜や手取川中流域に比較的広く分布していたが、現在の生息地は、加賀市、かほく市、宝達志水町に限られる。

生態

成虫は8月から出現し、9月まで見られる。海浜植物帯から砂浜への移行帯に見られることが多い。幼虫、成虫ともに肉食性で、成虫は俊敏に活動し小動物を捕食する。幼虫期は砂地に穴を掘って生活している。

生息地の条件

河原の場合は、広い砂地のある所が生息地となっていた。海岸の場合は、河口部および海浜植物帯の近くに安定した砂地のあることが重要である。

生存の危機

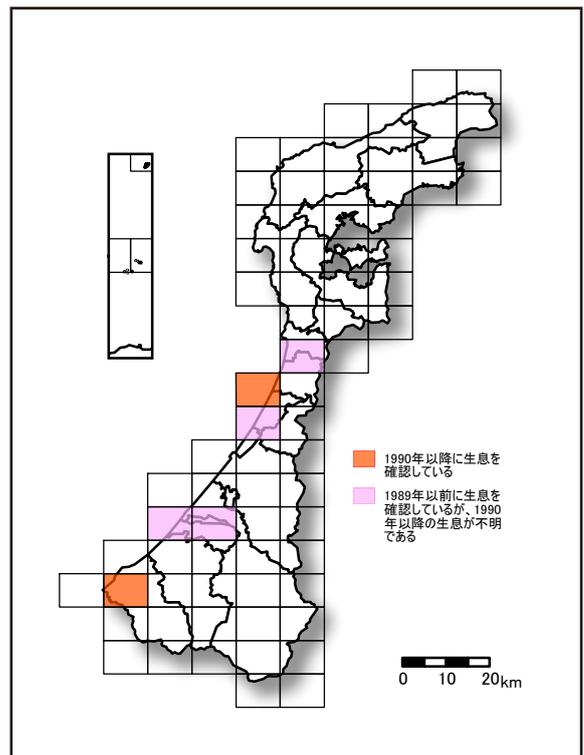
河原における生息地は、砂地の減少により消滅した。海岸の生息地も、海浜道の建設、護岸工事、宅地化などの人為活動により激減している。また、採集圧も大きな脅威となっている。(A)

参考文献

中根猛彦 1973. 日本の甲虫(2). 昆虫と自然, 8(10): 7.
芦田 久 1998. カワラハンミョウの分布と変異. 月刊むし, (333): 5-9.
徳本 洋 2001. 石川県内におけるカワラハンミョウの分布に関する記録. とっくりばち, (67): 2-4.



写真提供者: 富沢章



県内の分布